



とび
藤岡若鷺会

さわいりけん いとう かずのり
澤入賢さん・伊藤一徳さん

Profile

澤入さん(下)は1978年、伊藤さん(上)は1979年生まれ。はしごの乗り子として、地元のお祭りやイベントなどで高度な技を披露している。

技の極み、大空の芸術

藤

岡若鷺会の一員として、伝統芸能「はしご乗り」に情熱を注ぐ澤入さんと伊藤さん。彼らは、3年に1度行われる伊勢神宮奉納行事の「はしご乗りの奉納」の乗り子として県から選ばれた二人であり、十数年にわたる活動歴を誇ります。

二人がはしご乗りに出会ったのは14年ほど前。知人の紹介で若鷺会に入会しました。普段の練習は週2回程度で、仕事を終えた後に仲間たちと集まって行っているとのこと。危険も伴うため、集中力が必要で、短時間で集中的に行うそうです。「はしごにはバランスと力、二つの要素が必要です。軽い気持ちで始めたけど、もともと力には自信があったので、入会して比較的すぐに技を覚えられ、はしごの中段で技を披露できるようになった」と、二人は楽しげに振り返ります。

すぐにコンビを組んだ二人は、息の合った技を披露するため、普段からのコミュニケーションを大切にしています。10月に行われた伊勢神宮での奉納では、仕事の合

間に互いの職場を行き来し、技の完成度を高めていたとのこと。長年コンビを組んでいるからこそ強い絆が感じられます。本番当日は、普段と全く異なる環境で神聖な場所ということもあり、いつも以上に緊張したそうです。「澤入さんが場の雰囲気と和ませてくれたおかげで普段通り技を披露できた」と伊藤さんが話すと、澤入さんは照れくさそうに「お調子者なんです」と微笑んでいました。

「はしごの上で技を披露するのは、私たちだけでは成し得ない。はしごを支えてくれる皆の力があってこそ。私たちは乗せてもらっている」と二人は口をそろえます。そして、今後については、「筋力や体幹は衰えてきたが、体力が続く限り、乗り子としてこの伝統を後世に伝えたい。鷺の心意気を、少しでも感じてもらえれば」と熱い思いを語ってくれました。

緊張とプレッシャーが交錯する中、二人が披露する技は単なる伝統芸能ではなく、心を震わせる芸術そのもの。今後もその技を磨き、後世へと継承していくことでしょう。